

マケデコセミナー

新NISA x データ分析活用スペシャル

2024/2/15 19:30-

**新NISAでの個別株売買の勘所**

UKI@blog\_uki

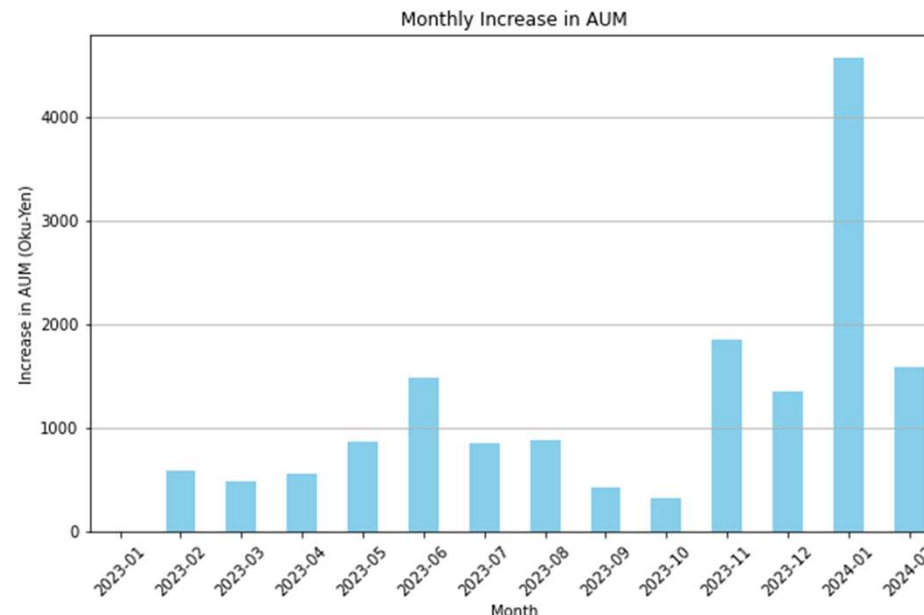
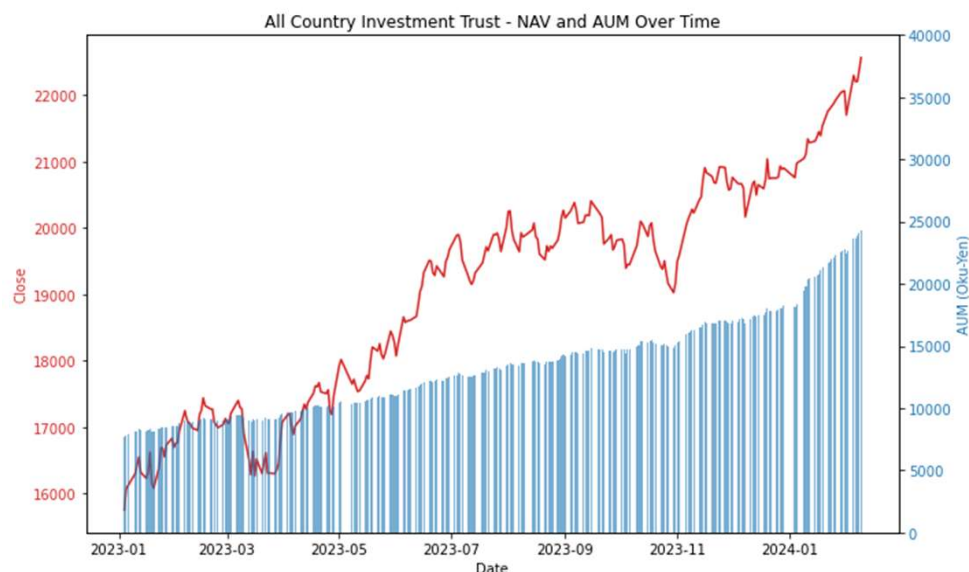
# コンテンツ

- 新NISA開始後の市況
- 新NISA×JQuantsAPIでできること
- 新NISAでの個別株戦略の立案
- 月次でのデータ分析
- まとめ

# 新NISA投信への流入状況

出所：「NISA投信」1月に1.3兆円流入 対象外ファンドと明暗, 日経新聞電子版

- 24年1月の新NISA対象投信への資金流入額は1兆3700億。
- eMAXIS SLIMオルカンへの流入が3439億で最大となっている。



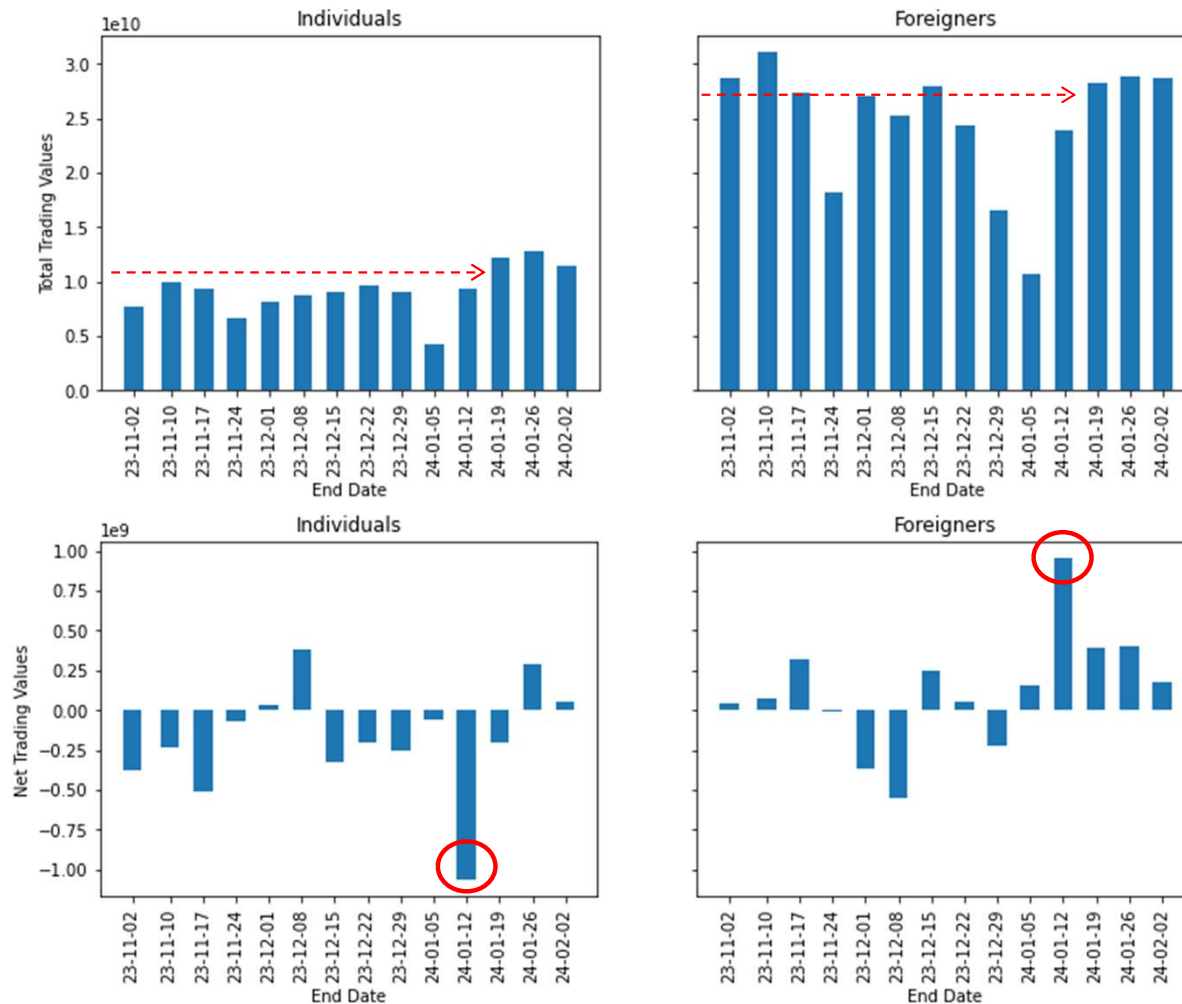
出所：投信WEBサイトからデータ取得後、筆者作成

新NISA対象ファンド流入上位		
1	eMAXIS Slim全世界株式（オール・カントリー）	3439億円
2	eMAXIS Slim米国株式（S&P500）	2090
3	NEXT FUNDS日経225連動型上場投信	548
4	楽天・S&P500インデックス・ファンド	400
5	<購入・換金手数料なし>ニッセイ NASDAQ100インデックスファンド	395

出所：日興リサーチセンター

## 個別株の売買動向

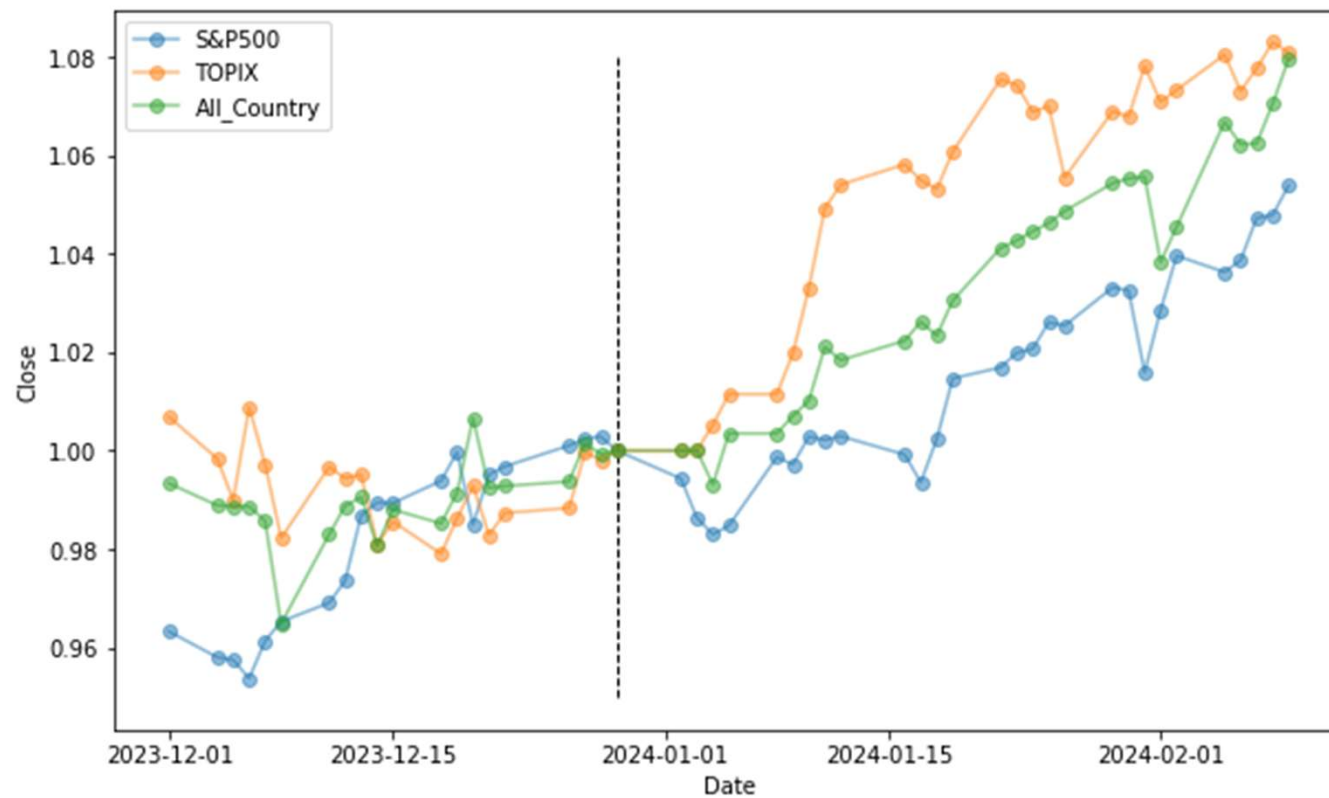
- ・ 新NISAによる個別株の売買高向上は見られていない。
- ・ 個人投資家は1月2週に大きく売り越し、海外投資家は買い越し



出所：JQuants APIから筆者作成

## 各インデックスの推移

- ・ 総じて堅調であり、新NISA枠を使った人は恩恵を受けている。



出所：筆者作成

## 新NISA×JQuantsAPIでできること

個別株で指数をアウトパフォームできるかどうか、その可能性を探ること。  
(できるとは言っていないが、できないとも言うことはできない)

### ＜過去記事で触れた投資戦略の一例＞

- ・ 1年間保有する場合、PBRと予想ROEによるスクリーニングは有効であった。  
(少なくとも2023年末までは)
- ・ 一度に買い付けするのではなく、月末毎に銘柄選定を行う。
- ・ 価格が上昇して12ヶ月騰落率が上位5%に入った場合、利確を検討して良い。

新NISAでの  
個別株投資を考えてみる



[https://note.com/uki\\_profit/n/nc22e324b26ad#888c231b-d1f1-4789-811f-2a28626c597a](https://note.com/uki_profit/n/nc22e324b26ad#888c231b-d1f1-4789-811f-2a28626c597a)

## 新NISAでの個別株戦略の立案

新NISA固有の制約により戦略の幅が絞られる。

- ・ 非課税枠は1200万まで、年間投資枠は240万まで。
- ・ 売却した場合、非課税枠は翌年まで解放されない。年間投資枠は解放されない。

※解釈が間違っていたらご指摘ください。

### ケーススタディ

原資+拠出額	①原資50万+毎年10万拠出	②原資200万+毎年50万拠出
想定される ポートフォリオ	10万円(株価1000円未満) ×5銘柄	40万円×5銘柄
回転売買	可能 例えば株価2倍となった場合、 利確して次の銘柄選定できる	難しい 2倍利確したら余剰資金が80万。 この時点で1年目の投資枠に入らない。
投資戦略	銘柄選定+回転売買でよい	長期保有にならざるを得ない。 テンバガーを狙っていきたい。

1stステージ  
→今回はこちら。

2ndステージ  
→北山さんが別途企画



## 月次でのデータ分析と運用

### 目標

- ・月次レベルのタイムフレームで超過収益を得るためのデータ分析を行う。
- ・指数をアウトパフォームすること。

### データ分析のポイント

- ・月次のためサンプル数が少なくなる。  
→複雑なモデリングではなく、シンプルな特性やアノマリを探していく。

### 運用について

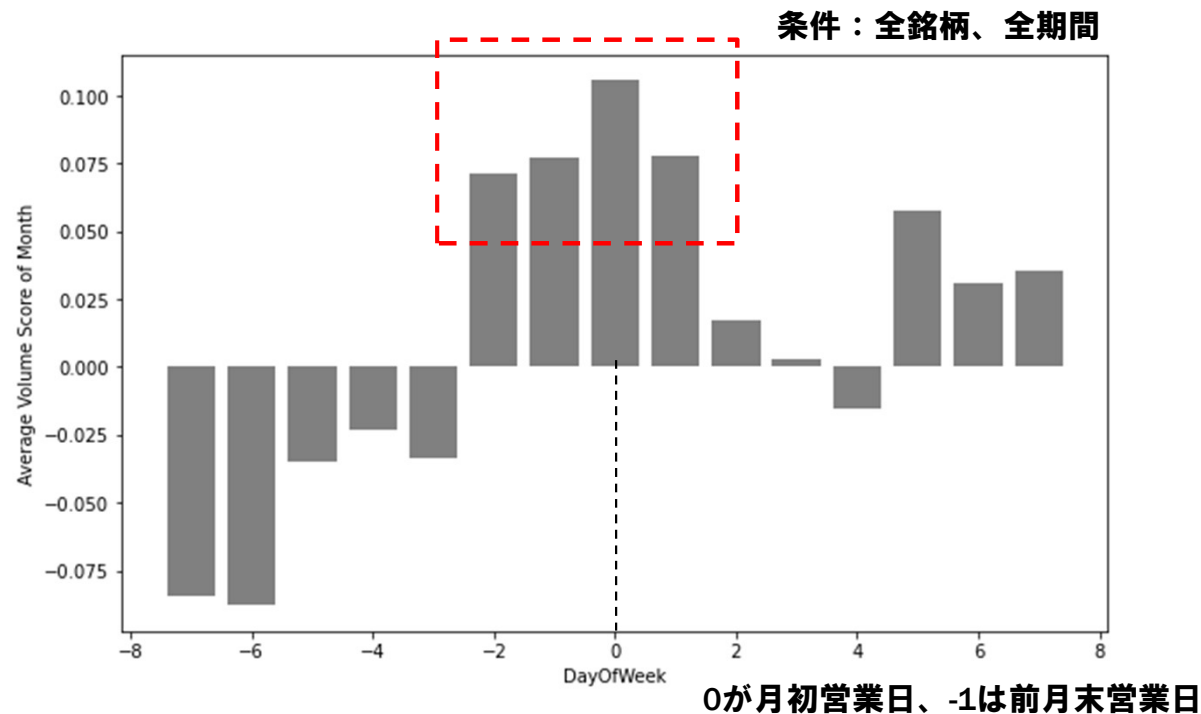
- ・納得できるものがあれば、覚悟を決めて買い付けする。
- ・結果は運要素が大きいことを納得しなければならない。



## 月次戦略構築の足掛かり

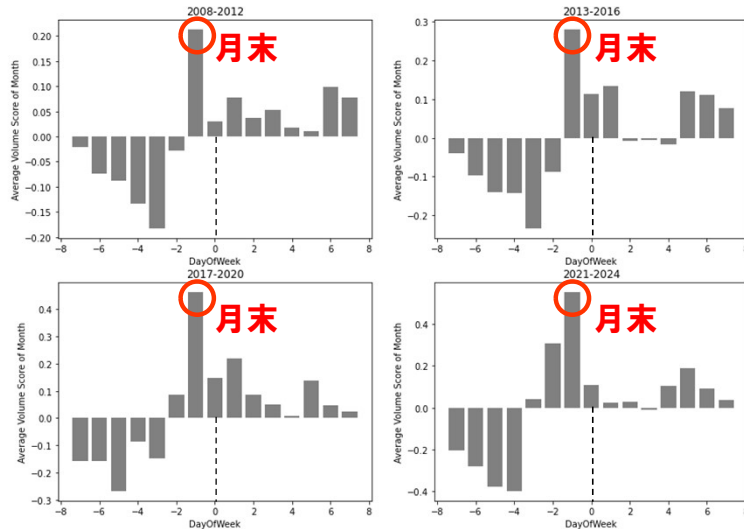
値動きの分析ではなく、まずは出来高の分析を行う。

- ・各銘柄、各月について、各営業日の出来高をZスコア化する。
- ・プロフィール毎に平均を取って特徴を観察していく。
- ・なぜこのようなことをするか？→戦略策定のアイディアとなるため。

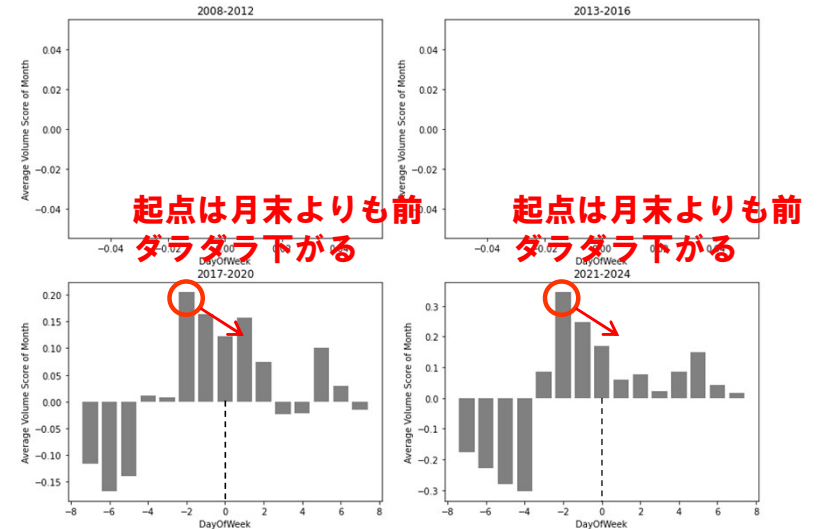


# 規模別・時系列別に観察する

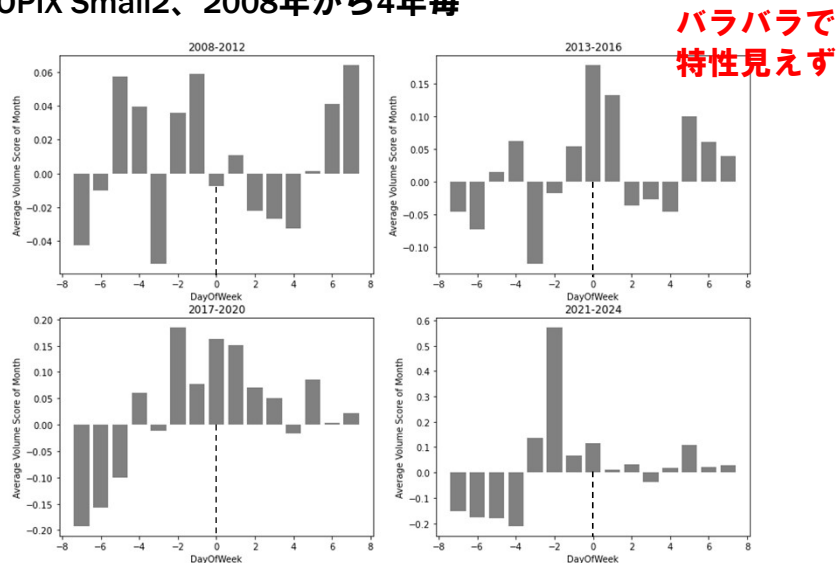
## 1) TOPIX500、2008年から4年毎



## 2) TOPIX Small1、2008年から4年毎



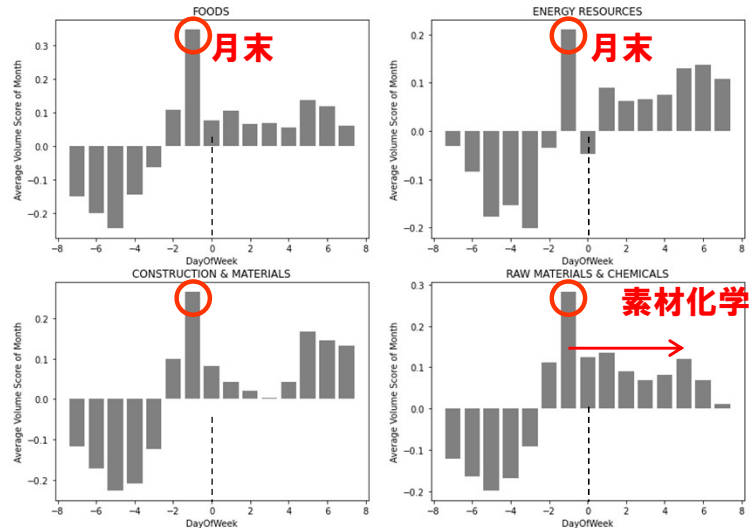
## 3) TOPIX Small2、2008年から4年毎



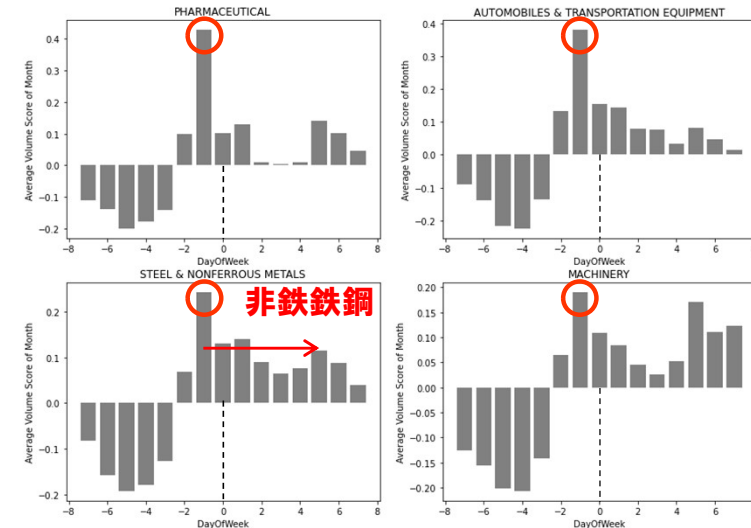
- 月次戦略を考える上で、TOPIX500、Small1、Small2は明確に区別すべき
- ストラテジーを組んだとき、おそらくエッジの源は同じとならない

# セクター別に観察する

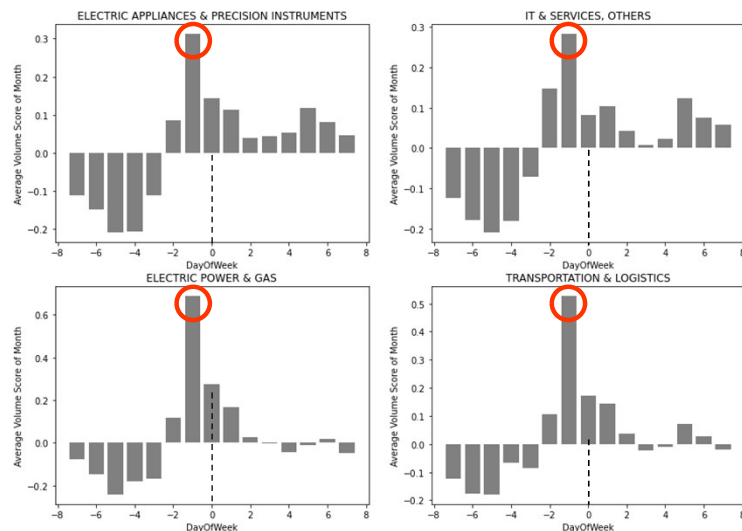
## 1) 食品、エネルギー資源、建設資材、素材化学



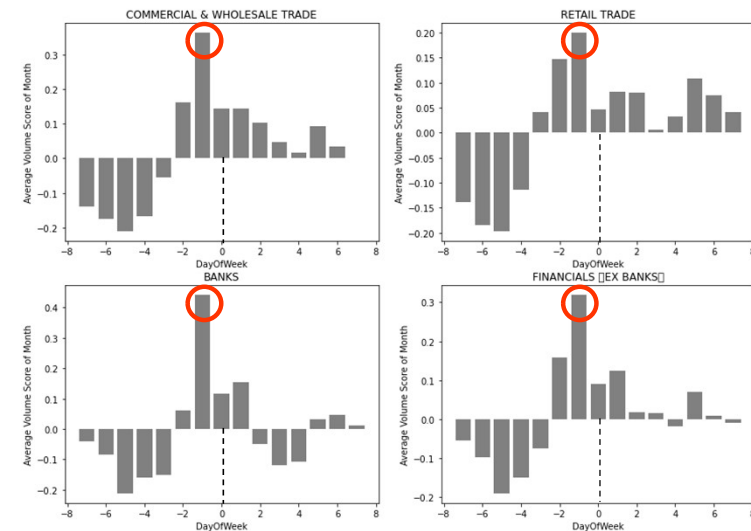
## 2) 医薬品、輸送機器、非鉄鉄鋼、機械



## 3) 電機精密、情通サ他、電力ガス、運輸物流



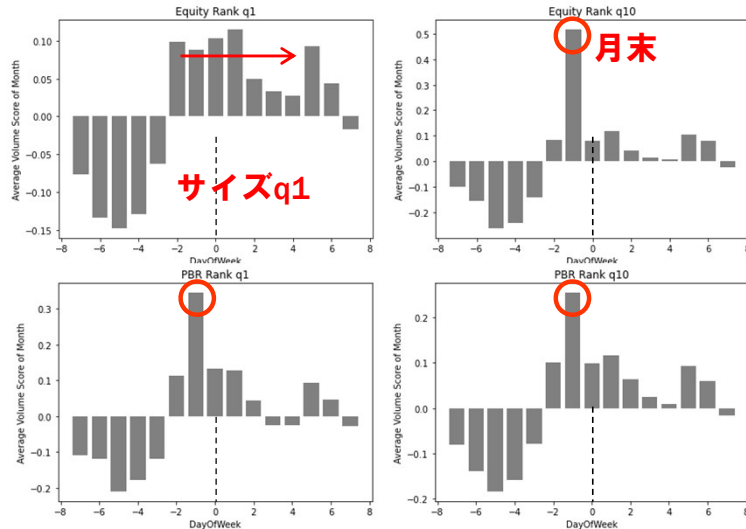
## 4) 卸売、小売、銀行、金融



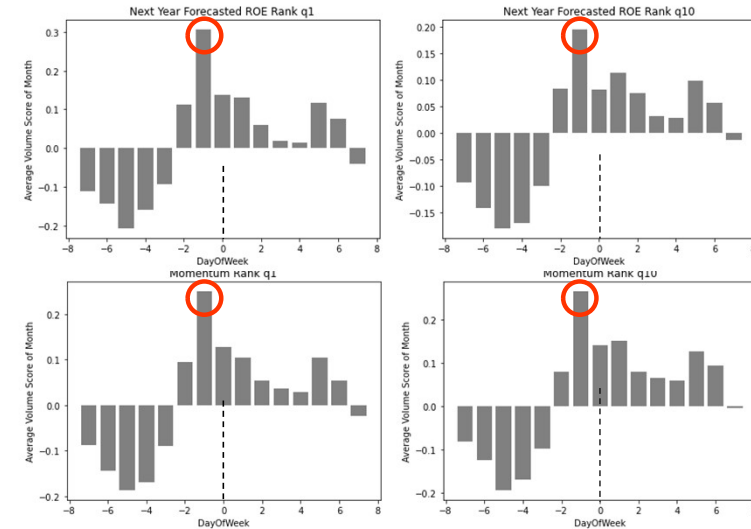
セクターによっては、出来高が継続するものもある

# スタイル別に観察する

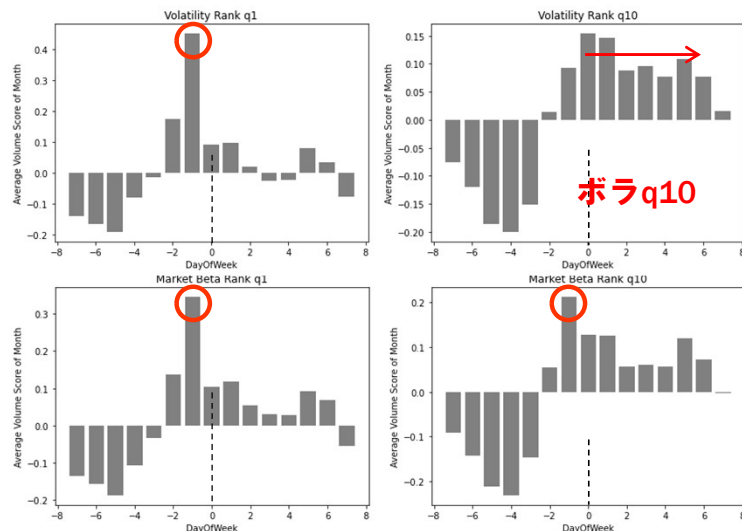
## 1) サイズ、バリュー



## 2) 予想ROE、モメンタム



## 3) ボラティリティ、マーケットベータ



- 特にサイズの第1分位、ボラの第10分位が特徴的な形をしている。
- サイズは月末営業日-1から出来高継続
- ボラは月初営業日が最も大きく、その後継続する

# 月次戦略構築のアイデア

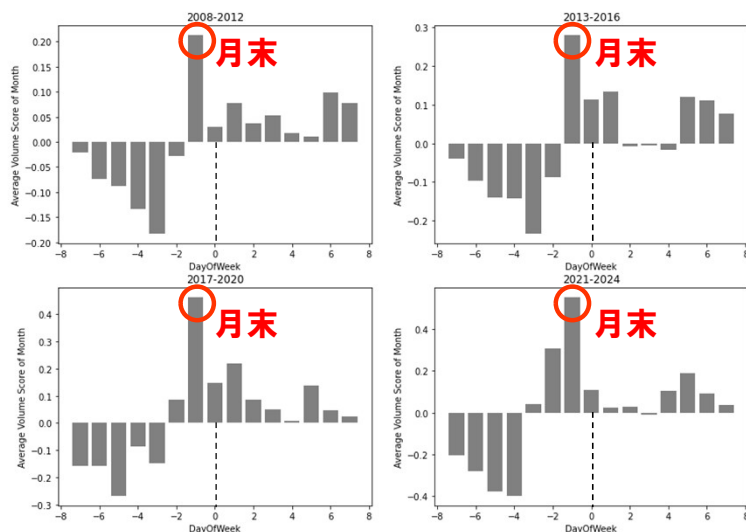
## <方針>

TOPIX500に対して、TOPIX Small1の出来高上昇が1営業日早いことを利用する

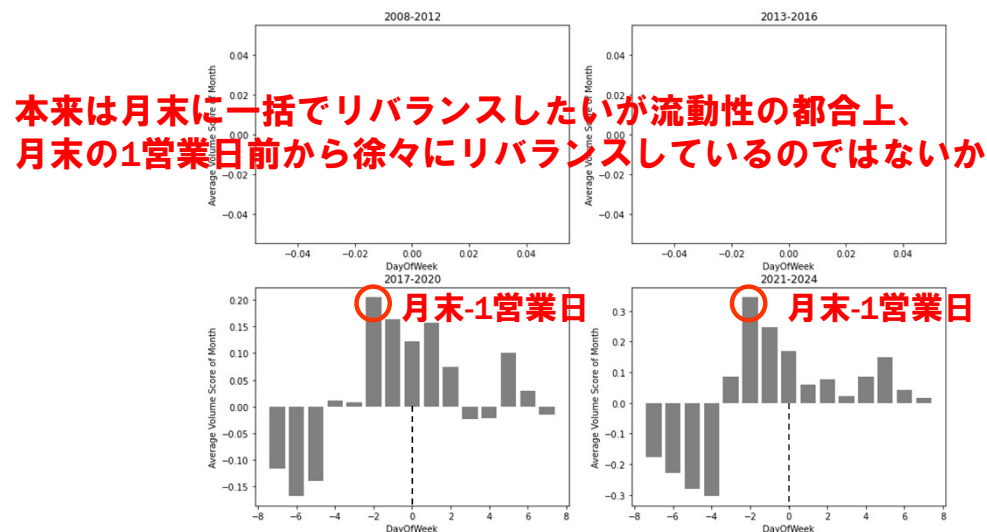
## <仮説>

- TOPIX Small1のリバランス開始日の値動きが、TOPIX500のリバランス動向を示唆していないか？

1) TOPIX500、2008年から4年毎



2) TOPIX Small1、2008年から4年毎



そうすると、もしもユニバースにSmall1を含めている投信やファンドの場合、Small1の買い付け動向がその後のリバランス動向を示唆するのは？

# 投資戦略

※ラグ、資金拘束、単元等の都合上、このまま実運用への採用は不可能であることに留意。

## (1)指標計算

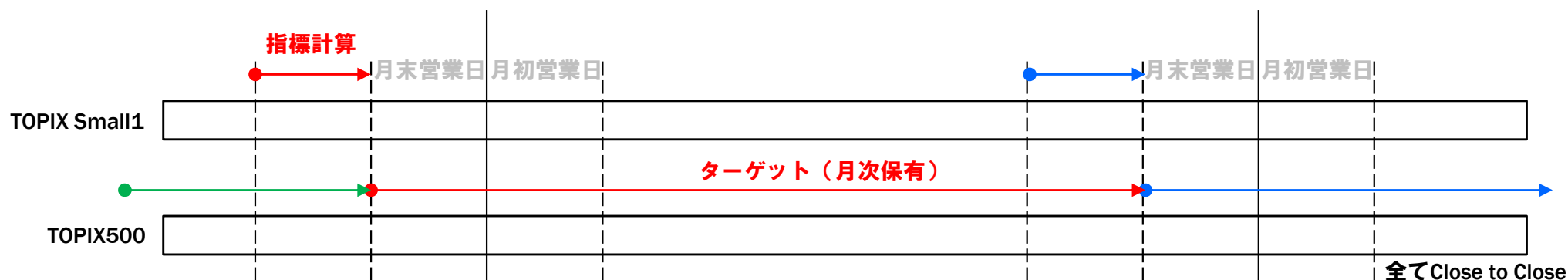
TOPIX Small1について、月末-1営業日のリターンをファクター別に集計する。  
ここでは、各々のファクターについて10分位毎のリターン平均を算出する。  
最も高い分位（q10）－最も低い分位（q1）を指標とする。

## (2)ターゲット

TOPIX500の月次リターン（月末-1営業日の終値基準）について、  
該当ファクターの10分位毎のリターン平均を算出する。

## (3)投資戦略

投資指標がプラスのときは、ターゲットのq10を買い付け、  
指標がマイナスのときは、ターゲットのq1を買い付けする。

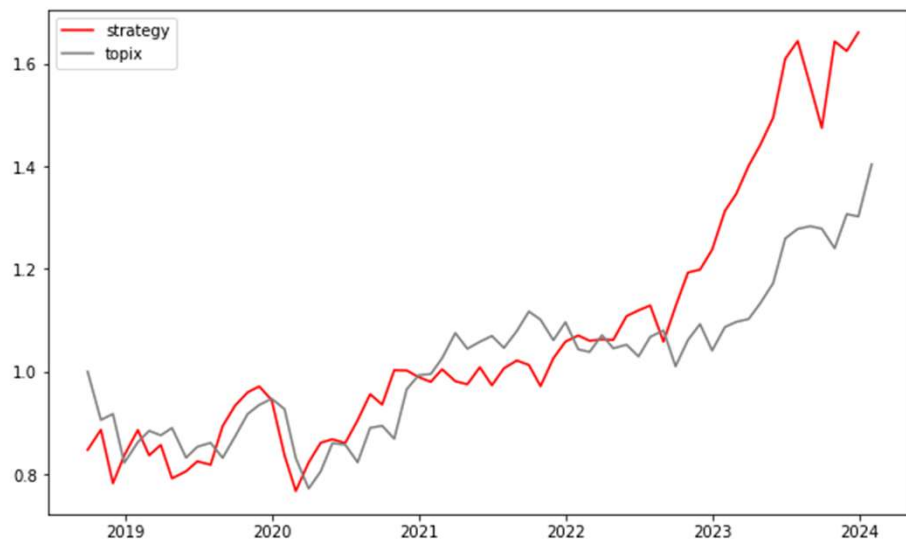




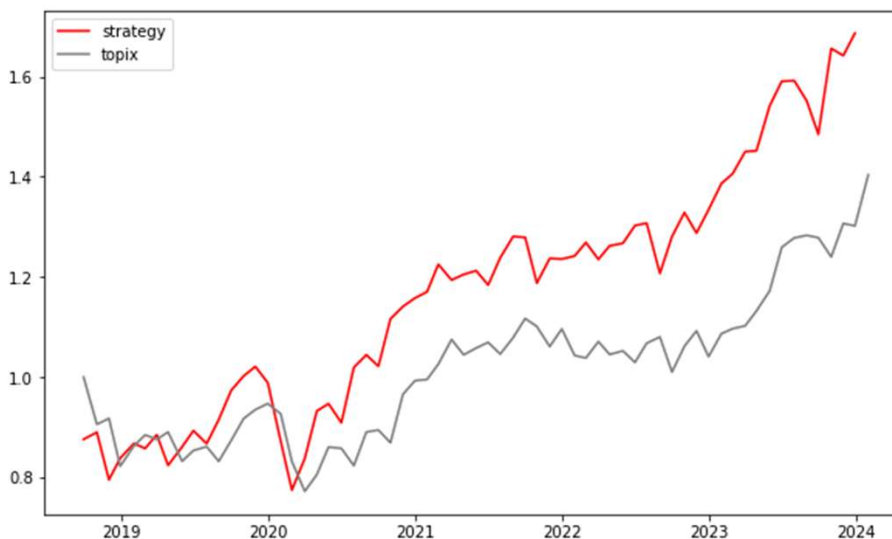
# バランスカーブ

※ラグ、資金拘束、単元等の都合上、このまま実運用への採用は不可能であることに留意。

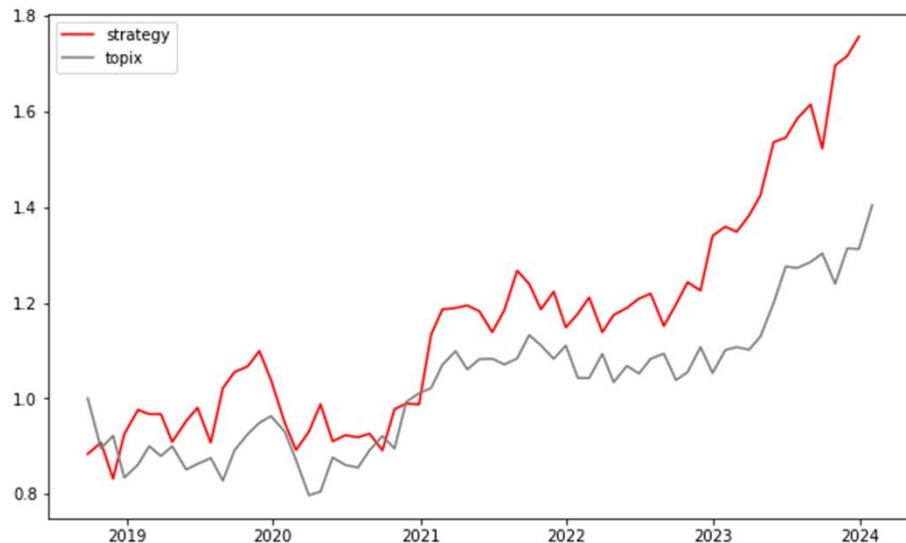
1) バリュー (PBR、月末営業日にリバランス)



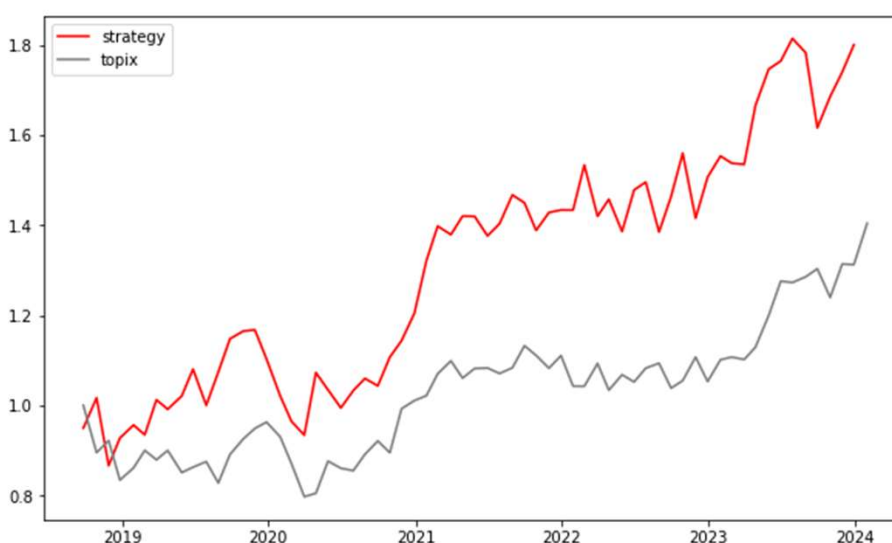
2) クオリティ (予想ROE、月末営業日にリバランス)



3) モメンタム (12ヶ月騰落率、月末-1営業日にリバランス)



4) ボラティリティ (12ヶ月StdDev、月末-1営業日にリバランス)





## まとめ

### 1) 今回紹介した投資戦略について

- ・いわゆるファクタータイミング戦略であり、動的なPF構築できる。
- ・バランスカーブは $q1$  or  $q10$ のバスケット損益であり、さらに銘柄選定が必要。
- ・感覚的にP値が大きいと思われる（そもそもサンプルが少なく分散が大きい）
- ・エッジの根拠としてはアノマリに近く、運用するには胆力が必要。

### 2) その他の投資戦略について

- ・APIを活用することで、確実にマーケットに対する解像度は上がる。
- ・出来高の傾向を眺めると、まだまだ投資アイディアは出てくるはず。
- ・ぜひ確かめてみてください。

**ご清聴ありがとうございました**

---